



三重の円になって舞う
平鍋集落の大踊り
＝中種子町の納官神社

中種子・納官神社

厳かに38人「伝統受け継いで」

最年少30歳の梶原美鈴さんは「覚えるのは大変だった。本番は無心で踊った」と苦笑い。笹川五男さん(69)は「20代から踊ってきた。14年ぶりということで達成感がある。若い人も頑張ってくれたし、今回を機に受け継いでいってくれば」と汗を拭いた。

例大祭では11月17日、地元の納官小学校の児童ら17人も和太鼓演奏を披露した。

三重の円になる大踊り。中心では、花がさをかぶった12人が小さな太鼓とかねを打ち鳴らして歌う。それを囲むように赤やピンクの羽織を着た10人が大太鼓をたたき、黒い紋付きはかまに身を包んだ16人が厳かに舞った。踊りは約30分。復活を披露した。

中種子町の納官神社の例大祭があり、近くの平鍋集落に伝わる「大踊り」が14年ぶりに奉納された。本来は男衆の踊りながら、伝統継承の危機感から女性陣も協力。30～70代の38人が色鮮やかな衣装に身を包み、復活の舞を披露した。

を待ちわびた多くの住民が駆け付け、歌い手や踊り手に大きな拍手を送った。

大人数で踊るだけに、人口減が進む集落では担い手不足が懸案だった。「このままでは忘れ去られてしまう」。危機感を抱いた納官校区長の笹川正さん(68)を中心に、校区内の住民に広く参加を呼びかけた。

メンバーが集まっても苦難は続いた。長らく途絶えたことで記憶や記録が曖昧で、残された映像の研究からスタート。約4カ月間、週3回の練習で6種類の踊りを習得した。

平鍋大踊り 復活の舞

14年ぶり、女性陣も一役

むずかしい漢字とことば

納官(のう・かん) 平鍋(ひら・なべ) 踊(おど)り 奉納(ほう・のう)＝神や仏にさしあげること。
男衆(おとこ・しゅう) 伝統(でん・とう) 継承(けい・しょう) 危機感(き・き・かん) 女性陣(じょ・せい・じん) 鮮(あざ)やか 衣装(い・しょう) 復活(ふっ・かつ) 舞(まい) 披露(ひ・ろう)＝広く人々に知らせること。太鼓(たい・こ) 紋付(もん・つ)き 厳(おごそ)か 駆(か)け付け(つけ) 拍手(はく・しゅ) 減(げん) 担(にな)い手(て)不足(ぶ・そく) 懸案(けん・あん)＝前々から、決まりがつかないままになっていることから。忘(わす)れ 抱(いだ)く 呼(よ)びかけ 苦難(く・なん) 途絶(と・だ)え 記憶(き・おく) 曖昧(あい・まい) 映像(えい・ぞう) 習得(しゅう・とく) 歳(さい) 若(わか)い 頑張(がん・ば)って 受(う)け継(つ)ぐ 汗(あせ) 拭(ぬぐ)う 演奏(えん・そう)

2024年12月4日付13面

【問1】平鍋集落に伝わる「大踊り」が奉納されたのは何年ぶりだったのでしょうか。

【問2】本来は男衆の踊りなのに、女性陣も協力したのはなぜでしょう。

【問3】どのくらいの年代の人が何人で踊りを披露したのでしょうか。

【問4】例大祭では、納官小学校の児童も参加しています。何を披露したのでしょうか。

【考えてみよう】身近な地域に伝わる踊りについて、調べよう。

